

ベラルーシに関する決議

インダストリアル・グローバルユニオン、 独立労働組合の解散を非難し、 ベラルーシの労働組合員全員の釈放を要求

2021年9月14-15日に開催されたインダストリアル・グローバルユニオン第3回世界大会は、ベラルーシ当局による不正選挙ならびに平和的抗議者、市民団体、特に独立労働組合に対する大規模な抑圧、暴力および拷問をめぐって、「ベラルーシで市民社会の破壊を阻止し、独立労働組合の権利を保護」という決議を全会一致で採択した。

民主的な労働運動に対する厳しい迫害が続いている。労働組合事務所や組合指導者・活動家の自宅が何度も搜索され、携帯電話やラップトップが押収された。組合指導者や活動家、組合員が尋問・拘束されている。

一例として、ベラルーシ冶金工場で警告ストを試みた結果、3人の組合活動家、Ihar Povarau、Aliaksandr Babrou、Yauhen Hovar が2年半から3年の実刑判決を受けた。数百人の組合員が市民活動を理由に罰金を科せられた。契約が延長されなかったため、多くの組合員が失業した。

人権保護団体によると、ベラルーシには今日現在1350人を超える政治犯がいる。この人数は増えている。その中には、インダストリアル加盟組織を含む独立民主労組の指導者・組合員が40人近くいる。

2022年4月、独立組合運動に対する大規模な攻撃により、ベラルーシ民主労働組合会議（BKDP）の指導者・活動家20人以上が逮捕され、合法的な結社の自由の権利を行使したことを理由に拘束された。この逮捕は基本的人権の重大な侵害となる。

逮捕された労働組合員の大多数は今日まで拘留中である。すでに長期刑を宣告された者もいれば、裁判が始まるようとしている者もいる。労働組合員の拘束が続いている。

最高裁判所は7月18日、ベラルーシ民主労働組合会議（BKDP）と、インダストリアル傘下の3団体を含むBKDP加盟組織4団体——ベラルーシ独立労働組合（BITUまたはBNP）、ベラルーシ無線・電子労組（REP）、ベラルーシ自由労組（SPB）、自由金属労組（SPM）——の清算・解散を決定した。

ベラルーシにおける独立労働組合の弾圧は侵略的なものであり、民主主義ならびに民主主義的な制度に対する攻撃となる。

2022年11月15-16日にスイス・ジュネーブで会合を開いたインダストリアル執行委員会は、

- 独立労働組合を清算するという最高裁判決を非難し、この判決を承認しない。
- 独立組合の指導者、活動家および組合員の継続的な迫害を非難する。
- 獄中の労働組合指導者・活動家を直ちに釈放し、すべての告訴を取り下げを要求する。
- BITU-BNP、REP および SPM が引き続きインダストリオールの加盟組織であることを発表する。
- ベラルーシの独立労働運動との連帯を表明する。

- インダストリアルに、ベラルーシの独立労働組合を引き続き支援して全面的に支持し、その組織的連続性・完全性を保証することを委任する。
- インダストリアル加盟組織に対し、ベラルーシの民主的労働運動と独立組合に積極的な連帯支援を提供し続けるよう求める。